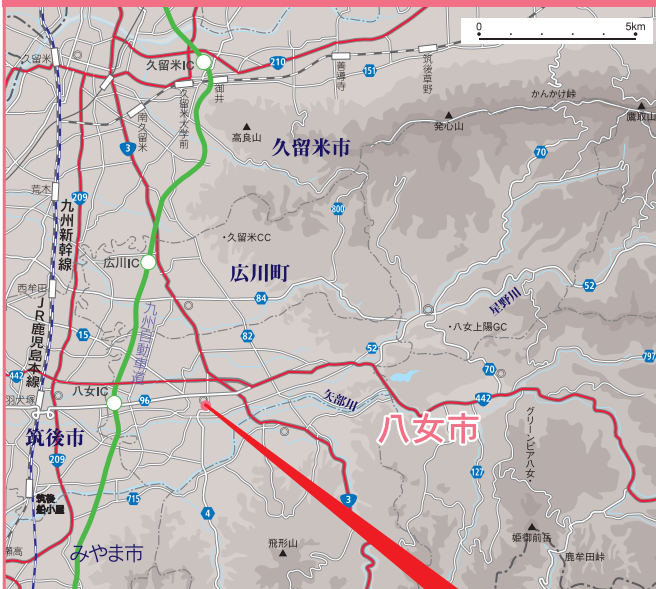


観る 知る 学ぶ 八女は楽しい



八女伝統工芸館 TEL.0943-22-3131

職人工房の見学や町並み散策、ボランティアガイドについての
お問い合わせはこちらまで！

[八女伝統工芸館ホームページ] <http://www.yame-kougeikan.jp>
[八女の手仕事ホームページ] http://www.yame-kougeikan.jp/yame_teshigoto

◎開館時間／9:00～17:00（月曜・年末年始休館） ◎入館料／無料
◎所在地／福岡県八女市本町2-123-2 ◎FAX／0943-22-3144

八女伝統工芸館への交通アクセス

- ◎JR九州（鹿児島本線）
博多～羽犬塚下車→堀川バス 八女黒木線 約20分（約7km）
福岡バス停下車→八女伝統工芸館へ 徒歩約10分
- ◎西鉄（福岡天神大牟田線）
福岡天神～久留米駅下車→西鉄バス 八女福岡線 約40分（約12km）
福岡バス停下車→八女伝統工芸館へ 徒歩約10分
- ◎高速バス
九州自動車道～八女IC下車→タクシーで八女伝統工芸館へ 約10分（約4km）
- ◎車
九州自動車道～八女IC下車→八女伝統工芸館へ 約10分（約4km）



八女市商工観光課 TEL.0943-23-1192

〒834-0031 福岡県八女市本町2-129



工房を訪ね、
手仕事を見つめ、
職人さんの話を聞く。
匠の技を肌で感じるとき...

職人と工房

豊かな大地と 清流が育んだ 職人の技

八女の歴史は伝統工芸品とともに歩んできた歴史でもあります。

仏壇や提灯は江戸時代から、手すき和紙は400年以上前から、石灯籠の八女石工としての歴史は古墳時代の「石人・石馬」までさかのぼることもできます。

昔ながらの町並みのなかで、磨き上げられた職人の技が今も息づいています。



江戸時代に手仕事を含めた商工業が栄え、八女福島は在方町(ざいかたまち)として職人や商人などが集まった町ができました。その頃の面影が白壁の町並みとして今も残っています。(在方町…農村地域の商工業の中心地)



工房巡りや 町並み散策で楽しむ ゆったりとした時間

職人の工房を訪ねながら、町並みを散策したり、おいしい八女茶を飲んで休憩したり、ゆっくりと八女を味わってみませんか。



八女福島仏壇

国指定伝統的工芸品

職人技の結集

八女福島仏壇は木地・彫刻・金具・金箔・漆・蒔絵などの多くの職人が関わり分業で製造されるので、仏壇は総合芸術だと言われています。

世代を超えて

彫刻には、欄間(らんま)彫刻や宮殿(くうでん)と呼ばれる屋根の細工・彫刻もある。専門の技術を使い丁寧に作られる仏壇は、古くなくても修理され世代を超えて大事に使われ続けます。

伝統の技から

今は金具の技術を使ったアクセサリーや、蒔絵の技術を使ったインテリア商品なども作られています。



宮殿造り



金具職人が作った指輪



八女提灯

国指定伝統的工芸品

伝統のあかり

八女提灯も仏壇と同じく分業制で製造されています。木台を作る人・ひこを巻く人・貼り師・絵師・塗り師などの専門技術でひとつの提灯が作られます。火袋と呼ばれる部分は、張り型(提灯の型)に沿ってひこをらせん状に巻き、和紙や絹などを貼り付け、乾かした後に絵付けされます。

オリジナルの提灯

盆提灯だけでなく、お祭り用や太宰府天満宮・櫛田神社また居酒屋からの注文もあり、数多くの提灯が作られオリジナルの提灯も作ることができます。

提灯バッグ

提灯バッグなど伝統技術を活かした新しい商品開発も進められています。



職人工房見学などのお問い合わせは八女伝統工芸館へ。(13-14ページを参照ください)



八女手すき和紙

県指定特産工芸品

歴史ある和紙

八女手すき和紙の歴史は、九州で最も古く、文禄4年(1595年)全国行脚の途中に立ち寄った日蓮宗の僧・日源上人が、越前国(今の福井県)に伝わる紙の技術を伝授したことが始まりと言われています。

ねばりのある紙

繊維の長い地元産の楮(こうぞ)を主原料としているので、引きが良く腰のある、強靱で優美な和紙ができることが特徴です。

和紙でバッグも

八女手すき和紙は、一閑張から、障子紙、風呂やアクセサリーなど様々な用途に使え、特殊な加工をすればバッグにも。和紙を使ってオリジナルの作品づくりに挑戦しませんか。(八女伝統工芸館で手すき和紙体験ができます。)



山鹿灯籠にも使われている八女手すき和紙



コンニャク櫛で加工した和紙を使っています



八女石灯籠

県指定特産工芸品



石工による精巧な彫刻



町なかの恵比寿様

まさに石工ロード

八女石灯籠の起源は江戸初期といわれ、最も古いものは文久年間(1861~64)の作が残っています。市内で切り出される加工に適した阿蘇凝灰岩で、春日灯籠・雪見灯籠・自然木型灯籠・五重ノ塔灯籠などが作られています。石材加工場の集中する長野地区周辺では、石細工製品が立ち並ぶ八女ならではの光景を目にすることができます。

町を歩けば出会えます

八女福島の白壁の町並みには、阿蘇凝灰岩で作られた恵比寿様やお地藏様が至るところに祀られています。今も地域で大事にされている様々な表情をした恵比寿様たちを探し歩いてみませんか。

職人工房見学などのお問い合わせは八女伝統工芸館へ。(13-14ページを参照ください)



八女竹細工

県指定特産工芸品

生活のなかで 息づく道具

八女は良質の竹の産地で、それを使って丈夫で長持ちする竹細工を作ること
で知られています。カゴやザルには
様々な工夫が施され、縁を補強する「当
て」と呼ばれるひごは八女の特徴的なも
のです。お茶摘みで使うテボ(カゴ)も
作られ、生活のなかで息づいています。



福が回る

昔から子どものおもちゃとして
親しまれてきたこま。八女には
菅原道真公が伝えたとも言わ
れています。また「福が回る」
「金回りがよくなる」ともいい、
縁起物としても人気があり、新
築祝いなどに飾りこまを求め
る人も多い。飾りこまはひずみ
が出ないように、荒削りしたあ
と半年間乾燥させてロクロ仕
上げをします。



八女和ごま

県指定特産民芸品

木の性格を見極める

地元産の木材から生み出される伝統の手
づくり桶。桶以外にも様々な注文に応じ、
小さな製品から旅館で使う大きな風呂桶
まで。カーブの部分は、木材を台形にカッ
トしたものを組み合わせて作っていきま
す。木の性格を見極めて用途にあった道
具が作られます。ここで作られた桶は、修
理を繰り返しながら20~30年もの長い
間、大切に使われます。工房には全国から
送られてきた修
理待ちの桶が
並んでいます。



桶



久留米絣



豊富な柄

機械で織られる久留米絣は、
濃紺だけではなく赤や黄・緑色
などの様々な色合いのものが
あります。博多山笠の法被も作
られています。また、工房に訪
れるお客さまの声から新しい
柄も生み出されています。

職人工房見学などのお問い合わせは八女伝統工芸館へ。(13-14ページを参照ください)



茶・酢・酒



貯蔵熟成で
まろやかな味



職人の写真提供: (株)高橋商店



ギャラリー内

町なかにあるお茶屋さん

八女と言えば八女茶。日本有数の高級茶として、全国的に知られていますが、やっぱり地元で飲むお茶は格別です。八女福岡の伝統的町並みには、江戸時代から続くお茶屋さんがあり、ギャラリーとしても開放されています。建物のなかには以前使われていた「茶の拝見場」（お茶の審査や商談などをしていた場所）があり、茶問屋独特の雰囲気を楽しむことができます。お茶屋さんに寄れば、お茶の淹れ方から詳しく教えてくれ、美味しい八女茶も試飲できます。

醸造酢

風土が豊かだから「食」の素材も豊富、醸造酢も見逃せない一品です。すべて手作りで、壺（つぼ）に入れて天日で発酵させるため大量には造れません。地元の米の他、巨峰・柚子・ブルーベリーなどを使った果実酢もあり、まろやかでコクコクと飲めて美味しい。醸造した果実酢は一年・二年または三年の貯蔵熟成により、まろやかな味となります。

江戸時代から続く伝統の技 老舗酒蔵

酒を仕込む冬の寒造りの朝、釜場から立ち昇る水蒸気とともに蒸し上がる酒米。蔵に響く櫓（かい）入れの音。蔵人たちの技により造り出される清酒は今、蔵の中で熟成の時を刻んでいます。現在は農協と協力し作付した新しい品種の酒米「吟のさと」での酒造りにも力を入れています。蔵見学は事前の予約が必要です。



「JAPAN TEA」

海外へ輸出していた時期があり、そのとき使用されたブリキの箱。レトロな複製版のラベルを使った八女紅茶も人気です。

レトロなブリキ箱

立花ワイン

八女市立花町にある「立花ワイン工場」では、低アルコールで甘酸っぱいジュース感覚のキウイワインや博多あまおう、八女茶、梅、みかん、ゆずなどを使ったワインを製造。工場内は見学できるように一般開放され、併設された「夢たちばな館」では試飲もできます。



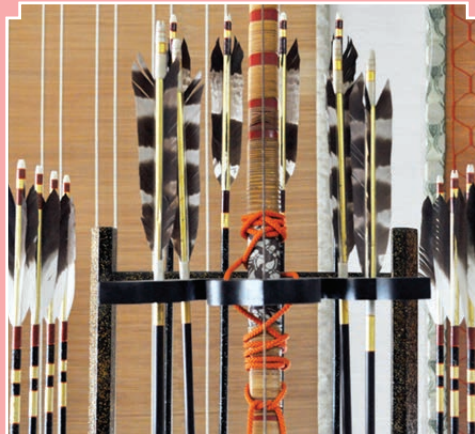
職人工房見学などのお問い合わせは八女伝統工芸館へ。(13-14ページを参照ください)

八女の匠の技



木工品

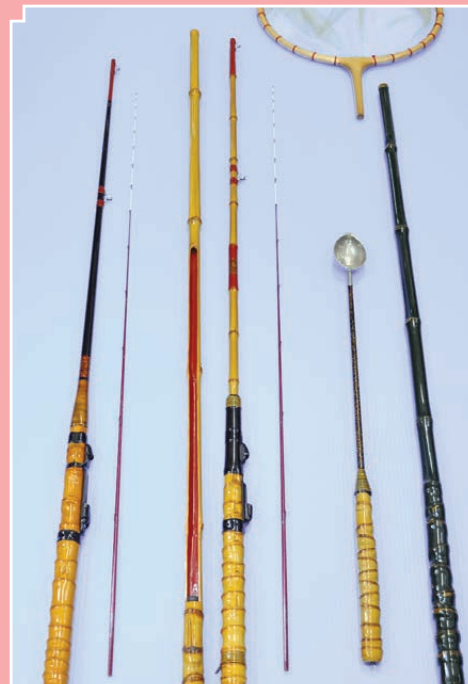
星野民藝・木屋民芸など、豊富な木材を活かして家具から器まで幅広く作られています。



八女矢

県指定特産工芸品

篠竹(しのたけ)を使って作られる八女矢は、矢飛びの良さと美しさで全国的にも有名です。



竹の釣竿

独特の竹のしなりが人気の釣竿は、布袋竹(ほていちく)を使って作られます。



刃物

一本一本、手打ちで作られ、魔よけ・開運のお守りとしても喜ばれています。



馬場水車小屋のお線香

水車の動力を活かして作られる杉粉を使ったお線香は、自然な香りが人気です。



焼物

星野焼をはじめ多くの窯元が特色ある作品を焼いています。



節句人形

八女のひな人形は「箱びな」が有名ですが、五月人形・破魔弓・羽子板など節句人形も作られています。



八女伝統工芸館

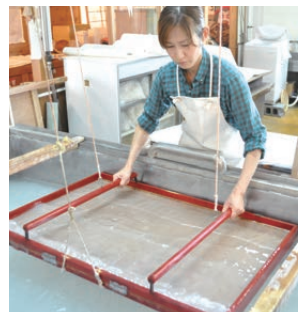
お問い合わせ先 TEL.0943-22-3131



ものづくりのまち八女の伝統工芸品が展示・紹介されており、伝統技術の素晴らしさを感じて頂けます。また、八女手すき和紙資料館、八女民俗資料館も併設。見て、触れて、体験して、八女の伝統を感じてください。

匠の技の実演が見もの

仏壇や竹細工の職人が実演を行っており、細やかな製作現場を間近でみる事が出来ます。職人たちの技と心をつぎ込んだ仏壇や石灯籠をはじめ、提灯・手すき和紙・久留米緋・竹細工など八女を代表する工芸品が展示・販売されています。



3つの巨大工芸品！

館内には、日本一大きな仏壇、石灯籠、日本最大級のジャンボ提灯が展示されています。



八女手すき和紙資料館

職人による実演の見学や手すき和紙体験ができます。ハガキやうちわ、名刺などを作りながら楽しく和紙づくりの工程を学べます。様々な種類の和紙や、和紙を使った作品も販売しています。和紙を使った教室も企画しており、和紙に関することなら、まずここへ。



和紙を使った製品



手すき和紙体験600円～



灯りづくり

八女民俗資料館

八女地方は伝統工芸と農業を主な産業として発展してきました。「職人と農業のまち」八女の歴史と民俗資料が展示されています。

国指定の重要無形民俗文化財 「八女福島の燈籠人形」

八女の代表的伝統芸能「八女福島の燈籠人形」(からくり人形)の屋台を原寸大で複製・展示しています。毎年、秋分の日を含めた3日間、福島八幡宮で公演されます。



八女福島燈籠人形屋台のレプリカ

「トンネル藤」



現在、八女伝統工芸館のある場所には、終戦直後の昭和20年12月から昭和60年3月まで国鉄矢部線「筑後福島駅」があり、蒸気機関車やディーゼル機関車が走っていました。工芸館の南側には廃線後のレールを利用した全長約500mの藤棚があり、「トンネル藤」の愛称で親しまれています。